東広島植物園　ニュースレター　第43号　Autumn

植物との ふれあい・学び

発行：瀬戸内 CN 国際共同研究センター・東広島植物園　2025 年 11 月

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR（総合博物館公認学生ボランティア）など多方面から支援を受けています。

ホームカミングデー

11/1（土）に東広島植物園の施設公開を行いました。当日は天候にも恵まれ、これまでにない多くの来場者で賑わいました。園内では、恒例の樹木クイズのほか、どんぐり工作、松ぼっくりツリー、しめ縄づくりなどの企画を実施しました。CSR から 15 名の参加があり、昨年に続いての生き物の生体展示や、今年の新企画として、どんぐりを使ったカブトムシ工作、笹の葉のバッタ工作、キャンパスの植物で作った染物展示など自然を使った企画で、会場を盛り上げてくれました。

キャンパスのアケビ

ミツバアケビは発見の小径でよく見られます

アケビ

ミツバアケビ

ムベ

アケビは、右巻きに伸びるアケビ科のつる性木本で、生け垣や里山の林縁に普通に生えています。アケビの小葉は 5 枚ですが、ミツバアケビは 3 枚です。ミツバアケビは、アケビより少し深い山に生えます。いずれも果肉は食用となりますが、若芽や果皮も山菜として食べられます。植物園の圃場で栽培されているムベは、常緑のためトキワアケビとも呼ばれます。

ミツバアケビの果実　↑

CSR フィールドナビ

11/15（土）、フィールドナビ「キャンパスの歩き方～地層編」を実施しました。理学部地球惑星システム学科の峯川くんがナビゲーターを務め、キャンパス内を歩き地層を観察しました。教室では水と砂を使った実験も行い、川の流れが作る地形を学びました。

"先端物質科学研究科のシンボルツリー" ゲッケイジュ

地中海原産のクスノキ科ゲッケイジュ属の常緑高木で、乾燥する気候に耐えるため厚くて硬い葉を持っています。雌雄異株で、日本には雌の木が少ないため、果実はなかなか見られません。葉にはシネオールを主成分とする特有な芳香があり、ローリエ（ローレル、ベイリーフ）とよばれ、香辛料として広く利用されています。古代ギリシャでは神聖な木とされ、4 年に一度開催されたオリンピア祭では勝利者にこの木の枝で作った冠を授けました。

栽培実習・R7 年秋コース

小型の管理機もみなさん上手に運転して畑を耕します。

R7 年秋コースを開始しました。秋コースでは、12種類の葉菜類、根菜類の野菜を栽培します。基本的な実習のほかにも、サツマイモ掘り、干し柿作り、シイの実取り、ナツハゼの実取りなど、自然の恵みを利用した体験もあり、楽しく実習が行われています。

附属幼稚園の親子フィールドワーク

植物園での植物あそび

9/30（火）にはビオトープで、10/16（木）には植物園で附属幼稚園の親子フィールドワークを行いました。普段とは違ったたくましい子どもたちの姿を見て、保護者の方にも新鮮な体験となりました。

両日とも、CSR のメンバーがガイド協力をしてくれました。

中学生の職場体験

9/18（木）、磯松中学校の 2 年生 4 名が、植物園で職場体験を行いました。宮島実験所の学生から園内の植物の説明を受け、自分の気に入った植物を 1 種選び、図鑑で勉強しながら展示用の解説パネルを作成しました。最後には、プレゼンテーションも行いました。

園内の植物

リュウキュウウマノスズクサ

Aristolochia liukiuensis

ウマノスズクサ科

奄美群島～沖縄本島に分布する木本でつる性の多年生植物。葉は薄い皮質でハート型。ジャコウアゲハやベニモンアゲハの食草。

園内の植物

クワイバカンアオイ Asarum kumageanum

ウマノスズクサ科

屋久島の固有種。花期は 11～3 月で、葉に隠れるように地面すれすれに花をつける。カンアオイの仲間は、江戸時代に葉姿を鑑賞の対象とされた古典園芸植物。

［お問い合わせ先］

広島大学　東広島植物園

TEL：082－422－7111
（内線2842）

E-mail : tshioji@hiroshima-u.ac.jp